

K O B E A R T I S T S M U S E U M

コレクション

—北野町界隈の異人館は汲めども尽きせぬ美に溢れ、
その追及にあくことを知らぬ毎日であった。*

展

展示室1・2

画家の思い出と巡る神戸風景

展示室3

神戸ゆかりの芸術家たち・野外彫刻散策



小松益喜《古風な門・古風な家》1936~37年頃 神戸市蔵

会期: 2010年4月8日(木)~6月27日(日)

開館時間 午前10時~午後6時(入館は午後5時30分まで)

休館日 毎週水曜日(ただし5月5日は開館)、5月6日

入館料 一般200円(150円)、小中高・65歳以上100円(50円)

*()内は30名以上の団体割引料金です。

*神戸ファッション美術館に入館された方は無料で入館できます。

*小磯記念美術館に入館された方は、半券提示により、団体割引料金で入館できます。

神戸ゆかりの美術館
KOBE ARTISTS MUSEUM

〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中2丁目9-1 Tel.078-858-1520 <http://www.city.kobe.lg.jp/yukarimuseum/>

コ

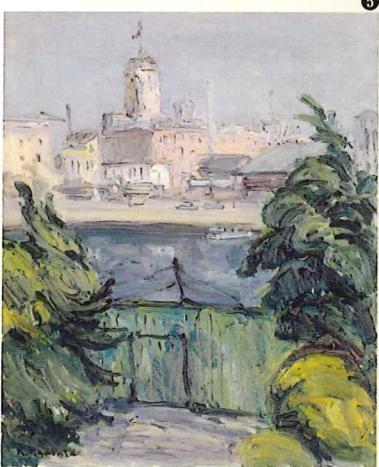
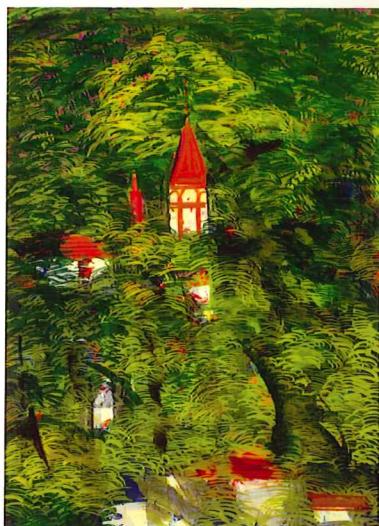
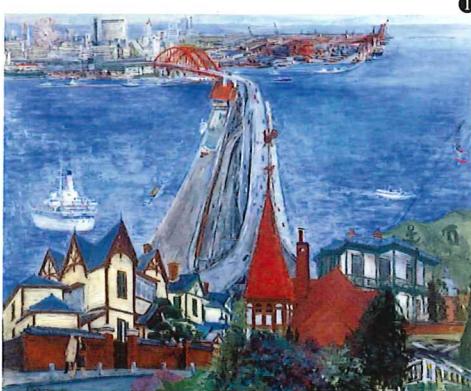
K O B E

A R T I S T S

M U S E U M

レ
ク
シ
ヨ
ン
展

当館所蔵作品から油彩・彫刻作品を展示します。展示室1では、小松益喜、川端謹次、西村 功らの作品と併せて、画家たちが残したエッセイを紹介します。洋画家 小松益喜は昭和9年、郷里の高知から神戸に立ち寄った際、エキゾチックな街並みに魅かれ神戸に留まり、以後60年以上神戸に暮らし洋風建築のある街並みを描き続けました。今回は、戦前・戦後の神戸風景を、建物やそこに暮らす人々について小松益喜の思い出とともに紹介します。小松が綴ったエピソードは、神戸の街並みや人々が時代と共に移りゆく様を現代の私たちに伝えてくれます。川端謹次が描いた新緑・初夏の心地よい風を感じる水辺の風景については、川端が語った制作時のエピソードを、西村 功が描いた洒落な街角風景には、西村が記した神戸についてのエッセイを紹介します。風景や人々にむけられた画家のまなざしを感じながら、なつかしい神戸風景をお楽しみ下さい。



①金山平三《港》1956~64年頃 当館蔵

②西村 功《ポートアイランドと神戸》1990年 当館蔵

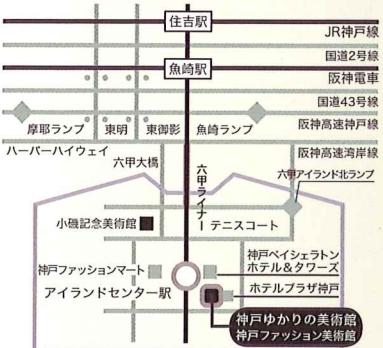
③西村元三朗《廃墟》1950年 神戸市蔵

④田中徳喜《家と道(A)》1955年 当館蔵

⑤角卓《観景(異人館)》1991年 当館蔵

⑥川端謹次《税関附近》1956年 当館蔵

表面※は小松益喜「いとしの異人館」より抜粋
『みなとまち・異人館』原田伴彦監修 徳間書店 1978年



アクセス

JR「住吉駅」/阪神「魚崎駅」のりかえ→六甲ライナー「アイランドセンター駅」下車南東すぐ

※お車の方は、美術館隣接の神戸ファッションプラザ駐車場をご利用ください。(30分100円 1日最大500円)

◇近隣美術館のご案内◇

神戸ファッション美術館 Tel:078-858-0050

次回展
「アッシュション奇譚—服飾に属する危険な小選集—」
4月15日(木)~6月27日(日)
休館日/毎週水曜日(ただし5/5は開館)、5/6、6/21~26

神戸市立小磯記念美術館 Tel:078-857-5880

次回展
「小磯良平作品選Ⅰ」4月9日(金)~6月20日(日)
次々回展
「特別展 画家 岸田劉生の軌跡」6月27日(日)~9月12日(日)
休館日/毎週曜日(ただし5/3は開館)、5/6、6/21~26

神戸ゆかりの美術館

KOBE ARTISTS MUSEUM

Tel:078-858-1520
http://www.city.kobe.lg.jp/yukarimuseum/